

図画工作科学習指導案

日 時 平成29年7月3日(月) 5校時
児 童 6年生
授業者
授業場

1. 題材名 「墨で表す」

2. 題材の目標

墨からできる様々な形や色，線などから発想することから見出した「表したい思い」に作品を近づけていく活動を通して，表したい思いと墨や用具による表し方の関係に気づき，表したい思いに合う表し方を考え，工夫して表現することができる。

3. 題材について

(1) 題材観

墨は一見色彩を持たないように見えるが，有彩色にも劣らず濃淡やにじみ・かすれなど豊かな表現技法を持つ優れた描画材のひとつである。表現に必要な墨や水，筆や紙といった用具は，児童にとって慣れ親しんだものばかりであり，扱いやすく，自分の表したい思いに合わせて何度も試すことができる。また，墨や用具の工夫などから生まれる形や線は，見る者によって，また見方によって様々な捉え方ができ，墨の濃淡からは，見る者が想像することによって無限の色彩を感じることができることから，児童が表したい思いを拡張，自ら表現の可能性を切り開いていける題材だといえる。

本題材では，これらの墨の特性を生かし，墨を用いた様々な表現に触れることから豊かに発想し，そこから自分の表したい思いを見だし，自分の思いを表すための技能等の選択肢の幅，造形的なよさや美しさを広く感じ取ることで視野などを拡張しながら表したい思いに作品を近づけていくことを主なねらいとした。自分の表したい思いにより作品を近づけていくために，繰り返し試すことができる本題材の特性を生かし，表したい思いと様々な表し方との関わりについて児童が考え，自ら気付いていくことが重要である。

(2) 目指す児童像

省 略

(3) 指導観

本題材では、墨からできる様々な形や色・線から豊かに発想し、そこから自分の表したい思いを見付け、造形的な見方や考え方を広げながら、自分の表したい思いに作品を近づけていく。造形的な見方や考え方を広げる手立てとして、表したい思いと表し方の関係性に気付かせ、自分の思いを表すための技能等の選択肢の幅、造形的なよさや美しさを広く感じ取ることのできる視野などを広げながら、自己の表したい思いに作品を近づけていくことが重要であると考えた。以下に、研究に関わる具体的な手立てを述べていく。

本題材における「見方・考え方」と「対話的な学び」との関係性

図画工作科における見方・考え方は、感性や想像力を働かせ、対象や事象を、形や色などの造形的な視点で捉え、自分のイメージを持ちながら意味や価値をつくりだすことである。

本題材では、墨や用具の特徴を生かしながら、自分の表したい思いに作品を近づけていく。そのためには、題材を通して児童の制作意欲を支える大きな柱として、自分の表したい思いをしっかりと持たせることが重要である。そこで、個人での制作を行った段階で、自分の表したい思いと自分の作品を比較させることにより、自分の作品の課題（自分の表したい思いがうまく表現できているか、何が足りないかなど）を見付けさせたい。さらに、表したい思いをもとに表し方を工夫している作品を鑑賞し、それらを比較したり分析したりして、表したい思いと表し方の関係に気付かせ、それらの視点を持った上で、友だちの作品を鑑賞し、対話したりアドバイスし合ったりすることで、さらに対話や相互鑑賞が活発になり、自分の思いを表すための技能等の選択肢の幅、造形的なよさや美しさを広く感じ取ることのできる視野などを広げることが出来ると考えた。ここであげる「表し方」とは墨と用具による技術や技法だけではなく、イメージを支えるための様々な要素のことであり、表したい思いと表し方の関係性とは、「墨の濃淡」「形や線、動き」「構図」「背景」などの表し方が表したい思いやイメージをどのように支えているのか、どのような働きや効果をもたらしているのかという関係性のことである。

他者との対話や鑑賞活動から、自分の思いを表すための技能等の選択肢の幅、造形的なよさや美しさを広く感じ取ることのできる視野などを広げた上で、自己の表したい思いを実現させるために必要な表し方は何かを考え、取捨選択し、自己の作品を自分の表したい思いに近づけていく。

自分の表したい思いをもとに、「みる」「つくる」を意識させ、試行錯誤しながら自己の表現を高めていく活動を積み重ねていくことは、創造活動や表現することに自分なりの意味や価値を見いだすことにつながっていくと考えられる。これらは、本研究主題の「自ら学ぶ意味を創造できる児童・生徒」の育成の一端を担うものとする。

4 評価規準

関心・意欲・態度	発想・構想	創造的な技能	鑑賞
ア 墨や用具の特徴などに関心を持ち、作り出す喜びを味わおうとしている。 イ 様々な方法を試みながら、表したいことを工夫し表現しようとしている。	ア 発想豊かに、表したいことを表すため、墨の濃淡や形、表現の構成などを考えている。	ア 感覚を働かせたり経験を生かしたりしながら、表したいことに合わせて墨や用具を使い、様々な表し方を工夫している。	ア 他の作品から、表し方の工夫や意図、よさなどを感じ取っている。

5 学びのデザイン

下支えする主体的な学び	学習活動	手立て
<p style="writing-mode: vertical-rl;">墨で表したものを見ることと墨で描くことを繰り返し、作品を自分の表したい思いに近づけていく。</p> <p>墨や用具を使って様々な表現を試みることで、墨の表現から発想し、見立てたりしながら自分の表したい思いを見つける</p> <p>表したい思いをしっかりと持ち、それらをもとに制作を行う</p> <p>自分の表したい思いをもとに、自分の作品の課題に気づく</p> <p>他者との対話や作品を鑑賞する中から、表したい思いと表し方の関係性に気づき、自分の思いを表すための技能等の選択肢の幅、造形的なよさや美しさを広く感じ取ることでできる視野などを広げ、作品を表したい思いにより近づけるようにしていく</p> <p>墨で表すことや、他者の思いや表現の工夫などから自分の造形的な視野の広がりについて振り返る</p>	<p>1・2時間目</p>	<p>【他者との対話】 墨からできた形や線の面白さを鑑賞し、他者のイメージや見立てを知ることによって、見る者や見る視点によって様々な捉え方が出来ることを知る</p>
	<ul style="list-style-type: none"> ○学習の流れについて知る。 ○水墨画について学ぶ ○墨の表現の可能性を知る ○墨や用具を使って様々な表現を楽しむ ○墨の濃淡や形から何が表せそうか考える 【関ア・鑑ア】 	<p>【自己との対話】 自分の表したい思いはどんなものかを再確認させ、表したい思いと現在の自分の作品を照らし合わせ(うまく表現できているか、何か足りないところはないか等)、現時点での自分の作品の課題を見つけられるようにする</p>
	<p>3時間目</p>	<p>【自己や他者との対話】 表したい思いをもとに表し方を工夫している作品を鑑賞し、比較したり分析したりして、表したい思いと表し方の関係性に気付かせる。また、その関係性の視点を生かして、友だちの作品を鑑賞し、対話したりアドバイスし合ったりすることで、他者の考えや表現の工夫を感じ、自分の思いを表すための技能等の選択肢の幅、造形的なよさや美しさを広く感じ取ることでできる視野などを広げていく。</p>
	<ul style="list-style-type: none"> ○前回の学習を振り返り、自分の表したいものを見つける。 ○他者のイメージや見立てを知る ○どのような作品が作りたいかイメージをふくらませ、そのためにどのように表せば良いか考える 【関イ・発ア】 	<p>【作品や自己・他者との対話】 「墨」で表すことや「水墨画」からどのようなことを学んだかを全体で交流する。また他者との対話や鑑賞から造形的な視野を広げることができていることを全体で確認する。感じたこと学んだことをワークシートに整理させる</p>
	<p>4時間目</p>	
	<ul style="list-style-type: none"> ○試行を繰り返し自分の表したいものに近づける ○自分の表したい思いと現在の作品を照らし合わせ、自分の作品の課題を見つける 【発ア・技ア】 	
<p>5時間目(本時)</p>		
<ul style="list-style-type: none"> ○作例を通して、表したい思いと表し方の関係性に気づき、その視点を生かして、相互の作品を鑑賞し、対話やアドバイスし合う。 ○他者の考えや表し方の工夫を知り、自己の造形的な視野等を広げ、自分の制作活動に生かしていく 【発ア・鑑ア】 		
<p>6時間目</p>		
<ul style="list-style-type: none"> ○作品を完成させる ○互いの作品を鑑賞し、表現の意図や工夫、よさや美しさを感じ取る 【技ア・鑑ア】 		

6 本時について(5/6時間目)

(1) 本時の目標

自己の表したい思いを表すために、表したい思いと表し方の関係性について、自分なりの視点を持つことを通して、自他の作品や他者との対話、アドバイスなどから、自他の思いと表し方の工夫、相互の造形的な見方、考え方を感知取り、自分の思いを表すための技能等の選択肢の幅、造形的なよさや美しさを広く感じ取ることでできる視野などを広げることができる。

(2) 本時における研究の視点

前時では、自分の表したい思いをどのように表現するか考えながら試行を続けてきた。その中で、自分の表したい思いをもとに、自分の表現(作品)の課題(うまく自分の思いを表すことができているか、何か足りないところはないか等)を考えた。

本時では、それらの課題解決のため、手立てIとして、全体の場で、表したい思いをもとに表し方を工夫している作品を提示し、それらを比較したり分析したりして、表したい思いと表し方の関係性に気付かせる。濃淡や形、線、勢い、構図、背景などが、作者のイメージをどのように支え、どのような働きや効果をもたらしているか、などという視点を持った上で、前時に出た自

分の作品の課題と、本時で得た視点を基に鑑賞活動を行う。その際は、作品をただ単に見るだけでなく、表したい思いと表し方の関係性を視점에鑑賞し、相互にアドバイスし合うことから、他者の思いと表し方の工夫を広く知ることができ、自分の思いを表すための技能等の選択肢の幅、造形的なよさや美しさを広く感じ取ることのできる視野などを広げ、自分の作品を見つめ直し、自己の表現を再考していく児童の姿が期待される。

(3) 本時の展開(○発問, △補助発問, □指示・説明)

学習活動	主な働きかけ	【評価】 個に応じた指導(▲)
<p>(前時の動き) 試行を続け、作品の課題や改善点を考えた</p> <ul style="list-style-type: none"> ・なんかうまくいかないな、どうしようかな ・どう表したらイメージに近くなるのかな ・こんな風にしたいのだけど良い方法はないかな 	<p>(前時:試行を繰り返させ自分の作品の課題や改善点を考えさせた。また、鑑賞のポイントやアドバイスのポイントなども学んでいる)</p>	
<p>1 自分の課題を確認させ、表したい思いと表し方の関係性に気づく</p> <ul style="list-style-type: none"> ・この作品は濃淡や、構図を変えるたりするとこんなに作品のイメージが変わるんだね ・この作品は○○○のイメージがよく出ているな。なぜだろう ・思いに合った表し方っていくつもあるんだな ・イメージを表す工夫をたくさん見てみたいな ・自分の作品はどうだろう 	<p>□前回自分の作品の課題を考えてもらいました。これからいくつかの作品をみてもらいます。(表したい思いをもとに表し方を工夫している作品を複数提示し、それらを比較したり、分析したりして、表し方によってどのようにイメージに近づいていけるかに気づかせる。出た意見を板書する)表したい思いと表し方って何か関係がありそうですね。色々な作品を見たらもっと分かることがあるかもしれないですね。 手立てI</p>	<p>【発言・ワークシート】</p>
<p>2 気づいた関係性をもとに、作品の相互鑑賞を行う。アドバイスは付箋に書き作品に貼る。自分の作品の参考になりそうな部分は「図工発見シート」に記入していく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・この作品はここをこうしたらもっと表したいものに近づくんじゃないかな ・この筆の勢いからこの人の表したい迫力のあるイメージが伝わってくるな。これはきっとこのかすれや勢いから感じるのだろう ・同じ題材(モチーフ)だけど自分と表し方やイメージが違って面白いな ・この作品の表し方は自分のイメージに近いな。 	<p>□みんなの作品を鑑賞して、どうしたらみんなの作品が表したい思いに近づくか考え、アドバイスを付箋に書きましょう。本人がいる場合は直接話しましょう。詳しく聞きたいアドバイスがあれば直接本人のところに行き聞いてみましょう A-1</p>	<p>【発言・ワークシート・付箋】</p> <p>▲アドバイスは付箋を貼るだけでなく本人がいれば対話するように促す。</p>
<p>3 鑑賞後、作品を見直し、変更点があれば記入。試行を再開する人は試行を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・表したい思いやイメージは表し方の工夫で大きく変わることがわかった ・ここはともだちからもらったアドバイスを使ってみよう ・いろんな考え方があったな。自分にはない考え方だったな ・いいアドバイスだな。こんなアドバイスの仕方良いな ・友達が使っていたこの表し方を使ったら自分の表したいイメージに近づけそう。試してみよう ・友達の作品みたいに濃淡を変えてみたらイメージに近づきそうだな 	<p>○ともだちからもらった付箋(アドバイス)から参考になりそうなアドバイスはありましたか。表したい思いと表し方とはどんな関係があったか気づいたことがあれば発表してください(全体の交流を行う。良いアドバイスや気づいたことがあれば作品を見ながら交流し板書してまとめる)</p> <p>□作品を見直し、変更する部分があれば青色鉛筆で計画書に記入してください。 A-2</p>	<p>▲作品に変更が無くとも、参考になりそうだな、良いなと思った表現についてシートに記入することを指示する。また、鑑賞後もとの作品を改善しても良いし、作品がこれまでの作品と大きく変わってしまったてもよい事を伝える</p>
<p>4 再度制作を行う</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アドバイスを試してみたら、よりイメージに近い作品になってきた。課題が解決できたぞ ・友達の作品を参考に、濃淡を変えたらよくなった。 ・友達のアドバイスを試したけど、今回は自分の表し方が思いにあっているみたいだ。 ・アドバイスや鑑賞ってよいものだな <p>4 学習の振り返りと、次時への課題をワークに記入する</p>	<p>□再び制作を行ってください。</p> <p>□学習の振り返りと次回の課題をワークシートに記入してください。次の時間は、最後の制作の時間となります。自分の表したいイメージが一番近い作品を提出してもらいます。</p>	<p>【ワークシート】</p>